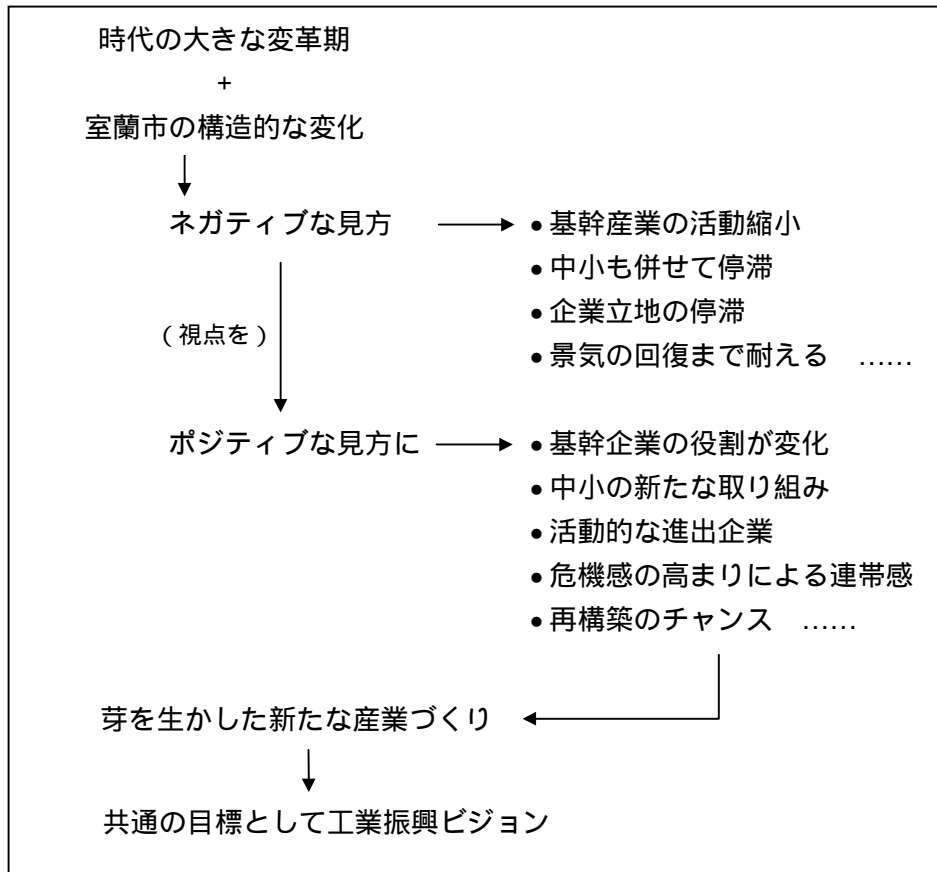

工業振興ビジョンの策定にあたって

- 室蘭市は工業生産の拡大とともに発展してきたまちである。
- 明治40年代に製鋼所、製鉄所が臨海部に相次いで建設され、北海道の工業都市として発展する基礎が築かれた。その後、わが国の経済成長に併せて、室蘭市経済も鉄鋼・造船を基幹産業として大きく拡大してきた。
- しかし、昭和48年の石油危機に始まる不況、これに続く円高不況などが鉄鋼・造船を基幹産業とする室蘭市の経済に大きな打撃を与え、その状況は構造的な課題となって長期化していた。
- こうした背景のもとで、室蘭地域には法の地域指定にもとづく各種の支援事業・制度資金が投下されてきた。とりわけ昭和61年に設立された室蘭テクノセンターは地域の中小企業振興の中核的役割を担い、各種の産業支援施策を展開してきた。また、地域をあげて積極的に企業誘致や異業種交流の促進などに取り組んできており、一定の成果を得ている。
- さらに、平成10年3月に策定した第4次室蘭市総合計画においては、「白鳥大橋へ対応したまちづくり」、「港・海へ対応したまちづくり」、「科学や工業技術へ対応したまちづくり」、「安心・安全で豊かな地域社会へ対応したまちづくり」、「地方の時代へ対応したまちづくり」を基本方向とし、さまざまな施策を展開している。とりわけ産業振興については、「北海道の工業技術都市」としての自覚のもと、これまで培われた技術や産業基盤の上に立ち、さらに産・学のネットワークを活用して、工業の振興と地場企業の育成を図るとしている。
- この総合計画の主要施策の一つとして「工業振興ビジョンの策定」が位置付けられており、ビジョン策定は、今後の室蘭市工業の発展及び振興方向を示し、工業振興に向けた地域の指針をつくることを目的としている。
- 室蘭市及び室蘭商工会議所による指針づくりは、昭和55年の「室蘭市の中小工業近代化ビジョン」以来である。前回のビジョンでは、中小工業の自立への指向を掲げ、具体方策として「機械アセンブリ企業の誘致」、「エンジニアリング組織の創出」、「工業団地への集約化」を提言している。
- それからおよそ20年が経過し、室蘭市工業の構造・活動は厳しい経済環境の影響を受けながらも、企業立地の進展、室蘭テクノセンターの設立、基幹企業からの分社など、一定の成果を得ながら変化してきた。今回のビジョンは、こうした変化を見据えて、21世紀をスタートする新たな室蘭市工業のあり方について検討したものである。

- 本ビジョンの策定にあたり、平成10年10月に市内製造業299事業所を対象としてアンケート調査を実施した（有効回収数88事業所）。その結果をみると、近年の経営環境について約9割の企業が「厳しくなった」とし、その理由としては、「主要取引先からの受注減」とする企業が極めて多い。
- 室蘭市のみならず、この10年、1990年代は、わが国及び北海道にとっても厳しい時代であったといえる。
- とりわけ産業活動における国際競争の激化は、わが国がそれまで優位性を保っていた分野に対しても影響を及ぼし、さらには国内需要の低迷もあいまって、長期的な構造課題を表面化させた。また、社会的には少子高齢化や環境問題、価値観の多様化などが進み、現在、わが国の経済構造、社会構造はともに大きな変革期に置かれている。
- 室蘭市工業を取り巻く環境の厳しさは長期間にわたり続いてきたものであるが、こうした近年の環境変化はさらにそれを増長させている。
- アンケート調査の結果をみるまでもなく、人口の減少、基幹産業の活動縮小とその下請中小への影響、企業立地の停滞など、室蘭市経済が直面する現実は厳しいものとなっており、新たな時代に対応した社会経済構造の構築への道のりは長いといえる。
- 白鳥大橋の完成とともに21世紀を迎える室蘭市がこの厳しい状況を乗り越え、新生室蘭を創造していくためには、経済基盤である工業の堅実な活動と新たな展開が重要であることは誰しもが認めるものである。
- 長い歴史の中で培われてきた室蘭市の産業風土、ものづくりに親しんでいるという北海道の中でも特異な都市文化を衰退させず、それを生かしながら新たな工業集積を形成していくことが次代への責務といえる。
- 室蘭市工業、とりわけ中小企業は、これまで鉄鋼関連の需要に大きく依存しており、地域内で取引する構造であることが指摘され続けてきた。しかし、今後は、取引の広域化を中心に中小企業の新たな活動が室蘭市工業の発展の原動力となることが期待される。
- 国においても中小企業を経済発展の中心的担い手としての位置付けを高め、政策的にその活動を促そうとしている。また、近年の地域産業振興は、外部から企業を誘致することよりも、地域内に集積している資源を生かしながら高度化を図る、新たな産業を創出するといった内発型の振興方向が大きな視点となっている。
- そのため、近年の室蘭市工業の変化を積極的な観点に立って見つめなおし、市内の人的・技術的資源を活用して総合力を発揮することや、中小工業の新たな芽を継続

的に育んでいくことが重要である。

- こうした視点をもとに積極的に振興施策を推進する必要がある、地域の各主体が一体となって気運を盛り上げ、連携して取り組んでいく必要がある。その指針となるのが今回策定した室蘭市工業振興ビジョンである。



- 本ビジョンでは、各種調査を経て室蘭市工業の生かすべき特徴と対応すべき課題を明らかにし、工業振興に向けた基本的視点として以下の点を取りあげた。

基幹企業の活動を地域としてさらに生かす
企業家意識の高揚・地域風土の醸成
蓄積を生かした新分野への展開
専門性・優位性の確保と市場開拓
企画・営業力の強化と市場開拓
系列など縦のつながりから横のつながりへ
工業の活動を支える支援産業との連携強化

- これらの検討結果をふまえて、創造性と多様性に富んだ産業集積を形成し、従前の「鉄のまち」に加えて新たな地域イメージを持ち、広く情報発信していくことが重

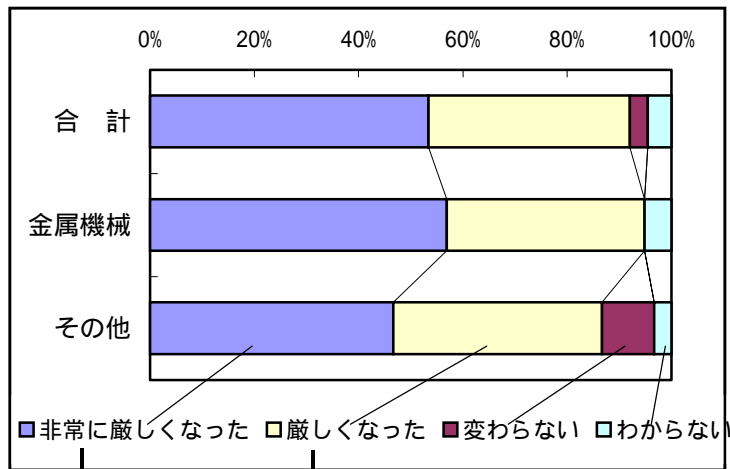
要と考へ、

企業家精神あふれる工業集積都市むろらんを目指して

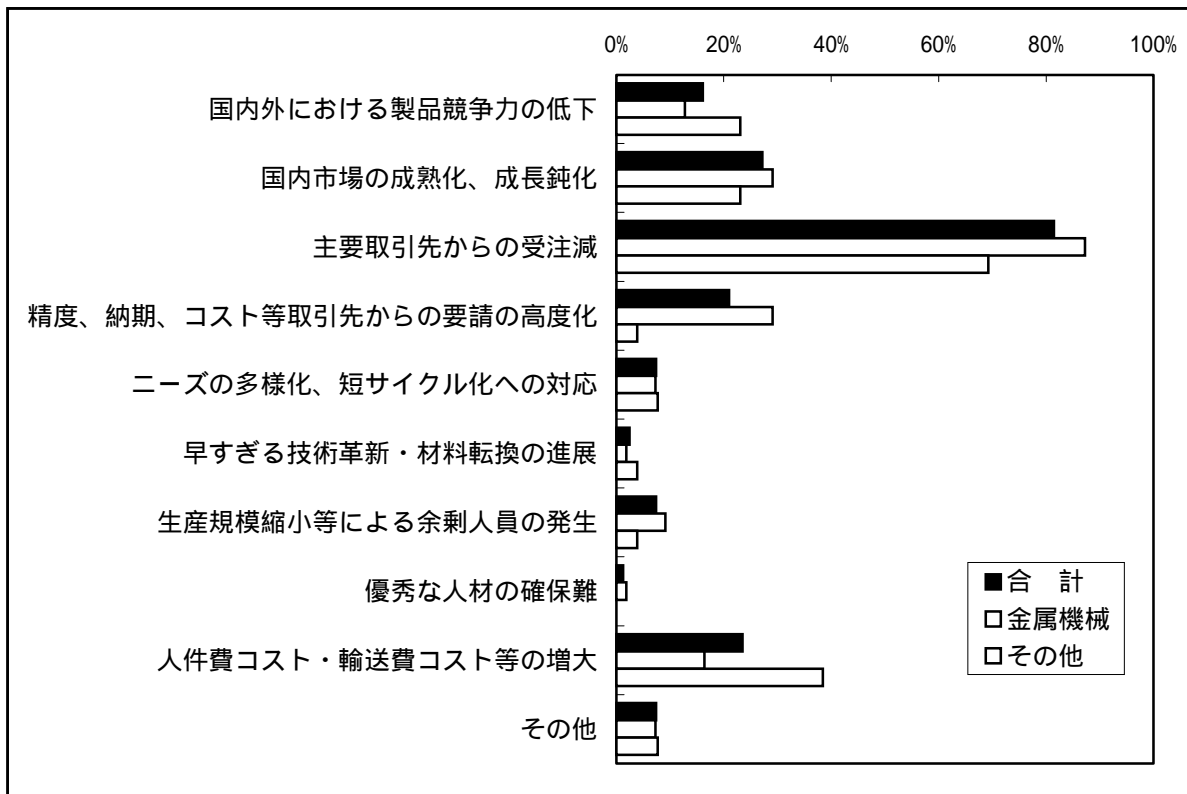
を工業振興の基本理念とでもいうべき室蘭市工業の将来像とし、この実現に向けた地域の共通認識として以下の5つを工業振興の基本方向とした。この基本方向を横断的に捉えて各種振興方策の推進を図ることとする。

新分野・新産業創出への継続的挑戦
特殊鋼基地としての協働と相乗的発展の推進
専門家集団と産業ネットワークの形成
マーケットへの接近と新規開拓への積極的挑戦
柔軟で有効な産業支援体制の確立

参考 - 経営を取り巻く環境に対する市内企業の意識と厳しくなった理由



厳しくなった理由



注 : 1. 「厳しくなった理由」は3つまでの複数回答

2. 「金属機械」は鉄鋼・非鉄金属・金属製品・一般機械・電気機械・輸送機械・精密機械の7業種で、「その他」はそれ以外の業種（以降、本文中の関連図表も同）

資料：室蘭市アンケート調査（平成10年10月）